様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">相模原市都市計画審議会小委員会（第３回）</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">まちづくり計画部　都市計画課
電話０４２－７６９－８２４７（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２９年１２月２６日（火）　１５時～１７時</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市役所　けやき会館２階　職員研修所</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">７人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">１１人（都市建設局長、まちづくり計画部長、都市計画課長、他８人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">（１）目指すべき都市構造の方向性について
１　検討手順の確認
２　市民意識（オープンハウス結果等）
３　目指すべき都市構造の方向性（拠点）
４　目指すべき都市構造の方向性（交通軸）

（２）その他</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（◎は委員長の発言、○は委員の発言、●は事務局の発言）

１　議題（目指すべき都市構造の方向性について）

事務局から「都市構造分析に基づく将来都市像について」説明を行った後、質疑を行った。

○現況分析は理解したが、小田急多摩線の上溝までの延伸計画などは本当に実現するのか。将来のプロジェクトを見込んで戦略的に位置付ける拠点については、プロジェクトの細かな整理が必要である。

●今回は拠点の属性の分類の仕方や基準に不適合がないか、追加すべき視点はないか、といった角度からご意見をいただきたい。また、各拠点の性格をしっかり位置付ける必要があると考えているため、類型ごとに目指すべき方向性についてのご意見をいただき、整理したものを今後の都市計画審議会に中間報告したいと考えている。
なお、各プロジェクトについては、現状で都市計画マスタープランに位置付けているものを入れており、小田急多摩線の延伸も対象となっている。

○オープンハウスのアンケート結果について、「まちをコンパクトにまとめる」という選択肢だけでは、回答者に十分に伝わりにくいと思われるが、具体的な例示などをした中で得られた回答なのか。

●実際にアンケートを行う際には、職員が本市のまちづくりの特徴や展望等について補足説明し、各選択肢についてのメリットやデメリットの事例を示した中で回答してもらっている。

○「まちをコンパクトにまとめる」という言葉では複数のイメージが想定される。自分の集落が消滅することも理解した上で選んだのか、今住んでいるところがコンパクトにまとまるという理解をした上でのものかで受け止め方が異なる。

○高齢者の中でも前期高齢者・後期高齢者に分けて考えていくことも必要ではないか。また、中山間地域の交通は、マイカー移動も多いため免許の保有率も含めて検証してはどうか。なお、市民に情報を出し一緒に考えていただくためには、１０年後の将来にはどのようになるというストーリーを示した方が理解されやすいと思う

審　議　経　過

●今後、市民に提示する際には理解されやすい見せ方を検討していきたい。

◎中山間地域を５分類にしているが、それぞれの区分についての将来像が見えてくると良い。

○オープンハウスのアンケート結果は、会場に来て、職員からの説明を聞いた上での回答であるため、コンパクトシティについて市民の理解が得られたとまでは言いきれないのではないか。「まちをコンパクトにまとめる」の中には、店舗や公共交通の撤退が心配なのか、最優先に進めるべきなのか等、色々な意見が含まれてしまっている。拠点のある地域の社協の方の意見など、地域を良く知る方へのニーズ把握も行っていただきたい。

●オープンハウスは市として初めての取組で、まちづくりの状況を周知することを目的に実施した。アンケートについては、市民意向の概況を把握したいため、合わせて実施した。イベント会場や主要駅、公園、商業施設などにブースを設け実施しており、その場所に私事目的でいらしている方々に意見をお聞きしている。また、次年度の５～７月には、地域のまちづくり会議に出向いて行き意見を聞いていく予定である。

◎信頼性に疑問があるが、WEB アンケートはどうか。

○多くの人が見ているページの中でアンケートをしないと回答が集まりにくい。一方で、それらに興味のある方の意見に偏ってしまう面もある。どのような手段にも対象の偏りは出てしまうため、様々な手段で意向を把握し、全体的な傾向をつかむ調査方法が良いと思う。

○相模原市の場合は、市民であることを意識している方は少ないと思われる。最近大学生の意識調査を実施しているが、単に生活者目線での回答が多い気がする。この結果を踏まえて考えていくと、将来像がなく時代に流された都市像になってしまう懸念がある。
そのため、「日本全体がどれぐらい人口減少する中で相模原市はどれぐらい人口減少するのか、その中でどのような都市づくりを進めるのか」ということを明確に示していく必要があると思う。
また、海老名に大規模ショッピングモールができたことで大きな影響が出たように、近隣地域の開発等にも大きく影響されてしまうので、近隣地域における開発計画を把握することも重要であると思う。

審　議　経　過

●近隣市町村の拠点を同様の評価項目で見た場合に、市内の拠点とどのような関係にあるのか確認する予定である。

○基本的には今回示されているのは現状の整理で、この先に目指すべき都市像のストーリーがあるのだと思う。人口等の動向を見ながら拠点及び集落の持続可能性と、持続可能性に問題がある場合はどこに誘導するのかという戦略を検討した方が良い。

●例えば、中山間地域の集落の類型ごとのあり方などについてご意見をいただきたいと考えている。

○中山間地域の集落の中で、データで見た時に単独での存続が困難な集落があるとすると、近隣と協力しながら存続するのか、住み替えを誘導していくのか、緩やかにでも方向性を示していく時期にあるのではないか。

◎２月の都市計画審議会では拠点の類型・配置図を示していくことになると思うが、方向性まで出すべきなのか

●今回示した拠点の分け方で大きな問題がなければ、それぞれについて方向性を追加したたたき台を作成し、次回に議論していただきたいと考えている。また、中山間地域は、現状は細かい５分類となっているが、都市計画審議会にお示しする際にもこのような細かいものが必要になるのかご意見をいただきたい。

○人口が１,０００人・２,０００人を維持できるといった表現は、市民にとっては実感がわかないと思う。６５歳以上人口の動向や若者が流入可能なのかどうか等の示し方の方がわかりやすい。

◎それらの状況は、町丁目毎に出している将来人口予測で補足してほしい。

○資料内にでてくる生活圏とは、どういった定義の範囲か。

●日常生活に係る医療、商業、福祉等の施設及び１日３０本以上の公共交通の全てを徒歩圏８００メートルで利用できる範囲を基本としている。

○前回資料の中では、ロードサイド型と駅集積型の両方があり性質が異なるとなっていたが、今回は一緒のデータになっているのか。最終的には、そのような異なる性質を踏まえて考えていくということか。

審　議　経　過

●上溝などは、駅周辺ではなく幹線道路沿いに都市機能施設などが集積しており、このような異なる性質を踏まえて考えていく。

○実際は、橋本より相模大野の方が多く人がいて購買力も大きい状況にあると思う。小田急線の複々線化などの影響で、都心部へのアクセスが良くなってきている中で、小田急相模原や東林間は、もう少し拠点としてのポテンシャルを秘めているのではないか。様々な計画を知っていれば今回の分析結果は納得できるが、市民の感覚とは少し異なる部分もあるかもしれないので、現況と将来を分けて表現した方が良いのではないか。

●橋本は広域プロジェクトを入れているため、それがなければ相模大野と同程度になる。現況と将来動向を分けたものを別途用意したい。ただし、中山間地域については、津久井の金原地区以外で人口増加に結び付く具体的な施策が想定されていないため、大きな違いが生じないと思う。

○橋本地区に住んでいる人にとっては、住んでいる地域が今後発展するという気持ちになるが、今後の大きなプロジェクトがない中山間地域に住んでいる人にとってはイメージが良くないと思う。この結果は客観的指標に基づくものであり、地域の住みやすさ・愛着や地域力の有無等は含まれていないものであると伝えていく必要がある。

○交通の不便なところでも定住意識が高いが、このままの傾向が続いていけば存続が難しいというように２つを組み合わせ、その中でどのような選択肢があるのかを付け加えたものを提示する必要がある。

◎主要プロジェクトが少ない津久井地域は、地域のつながり、地域協調などを基本としたソーシャルキャピタルを提示していくことが必要だろう。

○津久井の鳥屋地区のリニア車両基地や相模湖のプレジャーフォレストなど民間事業者の動きもあるため、分析要件に加味してはどうか。

○特性の項目に地域コミュニティを含めてはどうか。ハードや利便性だけではない都市構造を示せるのではないか。

○拠点と生活圏の整理が必要ではないか。拠点は様々な要素が集まった場所であり、全ての生活圏域に拠点が必要というわけではない。そういう点では、橋本と藤野の拠点がカバーする生活圏域の広さは異なるかもしれない。全ての市民がどこかの生活圏域に入っていて、そこが生活を持続できるのか・発展の可能性があるのか、という視点で判断できる形にする必要がある。

審　議　経　過

●拠点と拠点の間の生活圏については触れられていない面があるので整理していきたい。

○小委員会として、最終的にどのようなまとめ方をしていくのか改めて確認したい。

◎都市計画マスタープランの将来都市構造の中で拠点の位置づけを示すイメージである。

○拠点が都市機能誘導区域につながり、その周辺に居住誘導区域が広がるのだと思うので、拠点と生活圏域の両方が見えているとよい。

○ごみの回収や上下水道がどのようになるのかも市民にとって切実な問題である。どこで公共サービスを打ち切るのか明確な方針がいずれ必要になってくる。大きな施設の話だけではなく、身近な問題でもあるため、市民の方々に考えてもらえるようにしていく必要がある。

●拠点にも階層性があり、橋本等は周辺だけに留まらない市の広域の拠点である。それぞれの機能・位置付けた意味合い・目指すべき方向性を整理する必要がある。

◎生活拠点としては橋本も津久井も同じレベルで、次のレベルの機能が場所によって階層的に積み重なっていくイメージになるのだろう。

２　その他

＜次回の日程＞

平成３０年１月２５日　１０時～

相模原市都市計画審議会小委員会(第３回)委員出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	飯島　泰裕	青山学院大学　社会情報学部 社会情報学科　教授		出席
2	伊藤　彰英	麻布大学　生命・環境科学部 環境科学科　教授		出席
3	加藤　仁美	東海大学　工学部 建築学科　教授	副委員長	出席
4	西浦　定継	明星大学　理工学部 総合理工学科　教授	委員長	出席
5	保井　美樹	法政大学　現代福祉学部 福祉コミュニティ学科　教授		出席
6	澤岡　詩野	ダイヤ高齢社会研究財団 研究部　主任研究員		出席
7	中西　泰子	相模女子大学　人間社会学部 社会マネジメント学科　准教授		出席